

パサード・ビセッサー
トリニダード・トバゴ首相主催晩餐会における
安倍総理スピーチ

平成 26 年 7 月 31 日

パサード・ビセッサー首相閣下——、本日は、このようにすばらしい晩餐会に招待頂き感謝申し上げます。

ご列席の、カリコム首脳の皆様、皆様にわざわざお越し頂き、こうして親しくお会いすることができ、こんなに嬉しいことはありません。

カリブを「地上の楽園」と表した英国の作家キングスリー牧師は、長い航海を経て初めてカリブを目にしたとき、胸に秘めた大きな期待から、思わず「ついに (at last)」と声を上げたそうです。

私も、往事のキングスリー牧師と同様、大きな期待と親愛の念を胸に当地にまいりました。日本の総理として初めてのカリブ訪問が実現した今、日本とトリニダード・トバゴ、そしてカリコム諸国を強固な絆で結び、その可能性を開花させるときが「ついに (at last)」到来した、と確信しています。

今年は、日・カリブ交流年、そして、日本がトリニダード・トバゴ及びジャマイカと外交関係を樹立して 50 周年という記念すべき年。

双方で様々な記念行事が行われています。これらを通じて、半世紀にわたり構築してきた友好・協力関係を、更なる高みに引き上げたいと思います。

50年前の1964年は、東京オリンピックの年でした。トリニダード・トバゴは独立後、初めて参加し、男子100m×4リレーをはじめ、見事に3つのメダルを獲得されました。

半世紀を経た今、日本は再び五輪招致が叶い、2020年に東京五輪を開催します。世界に名高いカリコム諸国のアスリートの活躍を楽しみにしています。皆さんをおもてなしできるように、しっかり準備してまいります。

日本とカリコムは、幾千マイルもの距離があります。しかし、双方が共有する基本的価値、信頼及び連帯は、その距離を超越しています。

我々は、共に海に囲まれ、その恵みに生き、その安全が自らの安全に直結する海洋国家です。一時の利害の一致ではない、真の連帯を紡いでいくことが出来ると確信しています。

日本が東日本大震災の際にカリコム諸国から頂いた支援と連帯を忘れません。日本国政府と国民を代表し、改めて感謝申し上げます。

日本としても、カリコム諸国が直面する諸課題に対処するため、同じ海洋国家としての経験を活かし、様々な分野で協力を実施していきます。

今晚は、私に同行している企業関係者もお招き頂いております。すでにカリコム諸国で活動している企業もありますが、その数は更に拡大していく余地があります。今回の訪問が、ウィンウィンのビジネスにつながることを心から期待しています。

また、ナイポールやウォルコットを輩出し、世界に冠たる文化と歴史を誇るカリコム諸国との相互理解も促進したいと思います。

かつてセントルシアが誇る詩人ウォルコットは、“I mark the peace / with which you graced particular islands, / descending a narrow star / to light the lamps / against the night surf’ s noises” と詠みました。

ウォルコットが最愛の妻に捧げたこの詩の背景には、島の安寧と穏やかな海洋があります。

この情景を世界において実現していくグローバル・パートナーとして、日本とカリコム諸国は経済と人的な絆を強化し、国際社会で共に支え合う。私はそのようなビジョンを描いています。

日・トリニダード・トバゴ関係、そして、日・カリコム関係が、今回の訪問を契機に益々強固となり、両者を繋ぐ友好と相互尊敬の絆が一層深まることを祈念し、私の挨拶とさせていただきます。